

事例紹介

京都式ソーシャル・ビジネス応援プラットフォーム人づくり事業
 (子育て期の女性の力を活かして、子育て支援事業を持続可能に)

委託事業
概要

子育て期の女性や子育てを経験した女性の力を活かして、子育てを経験したからこそ感じられる「母親や赤ちゃんによいもの」をつくり、販売します。

委託先

特定非営利活動法人
子育てを楽しむ会
スタッフ数30人

新たな
雇用創出数
(計画)

3人

委託事業費

約380万円
(平成25年度)

委託事業
開始時期

平成25年8月

委託業務
内容

新たなオリジナル主力商品の開発と産院をはじめとする新たな販売ルートの開拓、ネットを活用した販路の拡大を図ります(平成20年にNPO法人を設立)。



子育てを経験した女性の中には、「こんな支援の形やグッズがあればよかった」という思いやそれを実現する能力・経験を持っている人が多いのです。
 一人で実現しようとするとう遠い夢のようなことかもしれませんが、「子育て環境を良くしていきたい」という思いを共有することで、ソーシャル・ビジネスとして、自立、継続的な活動を展開していきたいと思っています。

活動紹介

実際に自分の赤ちゃんで抱き心地を感じながら採寸していく、「むぎゅto」というオリジナルだっこひもをコンスタントに製造し、「欲しい時に手に入る」ものにするのと、その製品の良さを新規雇用者一人ひとりが理解し、お客様に伝えられるようにするためのママと赤ちゃんの心と身体を学ぶ研修を実施

WEB(しっかりしたHP、フェイスブック、ブログ)・POP・わかりやすい会計システムなど、経営についての学習と実践



待つ「販売」ではなく、産院など「赤ちゃん和妈妈がいるところ」に出向いての販路開拓やネットを活用した販路拡大



布ナプキン
お祝いセット
の企画会議

新製品の企画・開発

- ・環境と身体にやさしい布ナプキンを、初潮の時期から使えるお祝いセット
- ・ママやパパになる疑似体験を豊かにするためのママごとセット
- ・化学的な加工を最小限に抑えた布を使った赤ちゃんや子どもの普段着の製作
- ・日本の遊びの文化を伝える端切れを使ったお手玉づくりなど



ママごと
セットの企画
会議

端切れ
を使った
お手玉



事業終了後の事業継続

・雇用継続への展開

ソーシャル・ビジネスに取り組む以上は、自立継続した活動を展開することが重要であると考えており、商品の価格を決めるに当たっても、事業終了後のことを考えて設定しています。そのために、役員も含めた月に2回のミーティングを行い、方向性やコスト面について、みんなで考え方を共有するようにしています。

また委託事業終了後も事業を継続していくためには、安定した販路をどれだけ開拓できるかにかかっている、という緊張感を持ちながら取り組んでいます。

起業支援型地域雇用創造事業【徳島県上勝町】

事例紹介

上勝ゼロ・ウェイスト等指導者育成事業

委託事業概要

- 世代間交流人口の増加を促進するための企画員の育成。
- 一般廃棄物中間処理業務を身につけながら、遺品整理士の資格を取得し、過疎化でニーズが高まっている遺品整理作業もできる作業員を雇用・育成。

委託先

NPO法人 ゼロ・ウェイストアカデミー
従業員数3人

新たな
雇用創出数
(計画)

3人

委託事業費

約950万円(平成25年度)

委託事業
開始時期

平成25年4月

業務委託先の紹介

委託先であるNPO法人 ゼロ・ウェイストアカデミーは、上勝町が平成15年にゼロ・ウェイスト宣言し、これを限りなく現実化するため平成17年に設立されたNPO法人である。ゼロ・ウェイスト活動を通してゴミステーションやリサイクルショップの運営等もしている。現在、上勝町で直面している問題を解決し雇用につなげるため本事業に取り組む。

委託業務内容

町の産物を利用した郷土料理や高齢者が持っている織物技術などの伝承のための体験教室や交流を進めるコーディネーターの育成や、特に世代間交流人口の増加を促進するための企画員の育成を進め、この体験教室や交流を雇用の場としての確立を図る。

ゼロ・ウェイストを推進するうえで課題となっている独り暮らしの高齢者が亡くなった後の分別を進めるためにも、一般廃棄物中間処理業務を身につけながら、遺品整理士の資格を取得し、過疎化でニーズが高まっている遺品整理作業をする一般廃棄物取扱作業員を雇用・育成し、雇用の場の確保を図る。



過疎化が進む中山間地域では、様々な問題が湧き出てきますが、その問題を解決することを仕事にすることが、活性化にもつながると考えます。持続可能な仕事の形を模索して、地域内に雇用を確保していきたいと思っております。
事務局長 藤井 園苗



さおり織り体験教室

活動紹介

リメイク雑貨の作家間で交流を図り、新商品の開発やノウハウの交換などを実施。その他、郷土料理教室や織物教室など、世代・性別・都市農村を超えた体験交流により、「昔ながらの知恵や技」を活用した外貨獲得だけでなく、心の豊かさも育むことを目指している。

高齢者等が作成したリメイク雑貨等のインターネット販売の開始準備、顧客情報のデータ管理(体制作り)などITを活用した外貨獲得の手段を確立中である。

遺品整理士の資格取得に向けての学習、セミナー受講、受検を実施すると同時に、上勝町の廃棄物を取り扱う現場にて実際の作業ノウハウを取得中である。



リメイク雑貨の職人交流会



ゴミステーションにて一般廃棄物を整理中

事業終了後の事業継続 ・雇用継続への展開

体験交流については、年間の開催回数、顧客数を確保するために業務の効率化、広報について改善中である。リメイク雑貨については、新商品の開発、新規作家の獲得、販売店舗の拡大、各種運用面の改善を随時行っている。特に、販売店舗の拡大に合わせインターネット販売が新設できれば、要望の多かった全国のファンへの対応も可能となる。

遺品整理士については、全国的に認知度が高まり、業界としては飽和状態のようだ。資格取得も、現在は非常に厳しい状況のようだが、最終的に資格が無くても営業は可能であること、ならびに町内では都市部に見受けられる孤独死後の遺品整理という業務よりも、親族から“ともに家財道具を整理する”依頼の方が多く見込まれることから、資格取得がメインではなく、実際の作業管理などに重点を置いて準備をしていく。